

——編集後記——

AWI (The Asian Women's Institute) 会議が無事に終了し、より充実した『女性学評論』をめざすことになり、投稿資格の枠を拡げる方向で検討しております。今後一人でも多くの方々の御投稿をお願い致しますと共に、女性学インスティテュートのメンバーの増加と、発展を心から願っております。(S. H.)

1992年、今年はコロンブスの大航海事業から数えて五百年目にあたる。『女性学評論』を船にたとえると、その航海はまだ始まったばかりである。この先の航路には多くの苦難が待ちうけているかもしれないが、それ乗り越えて進み、女性学という新しい学問領域の開拓をめざしたい。本号の船出に乾杯。(F. M.)

はじめての編集委員でまごまごし、ご迷惑をおかけした。その第一の仕事に「書評欄」のための書物の選定があり、少し苦勞したが、家政学部の変革期に『家政学の間違い』という一書に出会えて幸運であった。これはその内容よりも、女性、家族、教育を考えさせる呼び水のように思われ、男性がその評論を引き受けて下さったことも素晴しかった。(R. M.)

編集委員を務めてはや2年になろうとしている。本誌の有する、何をやっても「女性学」になりうるが故の、新鮮な面白さとある種の危うさを感じさせられた。今後、本誌はどのような変貌を遂げるのだろうか。投稿者、読者層の拡大と、内容の一層の充実を祈りつつ、微力ながらもお手伝いさせて頂きたい。(M. W.)

論文1篇、研究ノート1篇と、篇数は少なかったけれど、書評も含め力篇揃いで、充実感のある号になったことを喜んでいます。次号あたりで特集を組んではという意見が、先日の編集委員会で聞かれました。ぜひ実現したい意見です。特集についてのいい案があれば、事務局あてにお知らせいただければさいわいです。(S. Y.)

=====